

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年5月31日現在）

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■担い手 新規就農者ハウスにて定植研修会（清見・荘川トマト部会）

5月10日、清見・荘川トマト部会の定植研修会が開催された。

研修会では、普及指導員とJA営農指導員から、これから本格化する定植前後の栽培管理ポイントについて説明を行った。とくに農業普及課からは、開花状況だけでなく根張りの様子も観察し、定植のタイミングを逃さないよう注意を呼びかけた。

また、すでに定植に取り掛かっている新規就農者のハウスを会場としたことで、今後の管理方法等について先輩生産者を交えて情報交換も行うことができ、新規就農者には一層有意義な研修会となった。

農業普及課では、営農指導員と連携して、新規就農者を含め清見・荘川地域の全生産者を定期的に巡回し、生産者の単収向上を目指して栽培管理等の支援を行う。



【新規就農者ほ場で研修会】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■大麦 ドローンで大麦の赤かび病防除

高山市国府町では、農業法人が約15haの水田で、大麦（品種名：ファイバースノウ）を栽培している。

5月上旬には出穂期を迎えたことから、農業法人が新たに導入したドローン（クボタ製 T20K）を用いて、5月9日～11日にかけて、赤かび病防除を実施した。なお、管内でドローンによる大麦の防除は初めての取り組みとなる。

近年、5月といえども天候不順な日が多くなり、赤かび病の発生リスクが高まる中、ドローンを防除に利用することでラジコンヘリコプターによる防除よりも機動性に優れ、生育や天候に合わせた適期防除が可能になると期待される。

農業普及課では、スマート農業への取り組みと安全・安心な農産物づくりへの支援を今後も継続する。



【ドローンで大麦防除】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■リンゴ 花芽分化率調査を実施

5月6日、農業普及課では岐阜県農業共済組合と合同で、果樹共済の加入者4名の園地において、リンゴの花芽分化率調査を実施した。

当調査は毎年実施しているもので、過去のデータと比較しながら花芽の形成異常や晩霜による花芽分化率の低下の有無を確認した。

昨年は、度重なる晩霜により花芽に重度の凍霜害を受けた園地が多く、品質・収量ともに例年になく落ち込む年となったが、今年は花芽の数も多く、凍霜害による被害もほとんど確認されなかった。

生産者からは、摘果等の管理作業を確実に実施できれば、今年は期待が持てるとの声が聞かれた。

農業普及課では、農業共済組合との各種調査を継続するとともに気象データを収集し、生育状況や天候に応じた栽培技術情報の提供など支援を行う。



【リンゴ園地で花芽調査】

## ■夏秋トマト 高山トマト部会研究班 活動検討会

高山トマト部会研究班は12名の農家で組織され、毎年トマト栽培に関する研究課題を立て、自ら試験に取り組んでいる。

5月23日、第1回活動検討会を開催し、今年の研究課題として大玉トマトの新品種や、例年問題となっている灰色かび病に対する新規殺菌剤の現地試験について取り組み方法を検討した。

検討会には、JAひだ営農指導員や普及指導員も加わり、新品種や新規殺菌剤に関し、それぞれの特徴を説明した。

結果、9名の農家が新品種の試験、3名の農家が新規殺菌剤の試験を行うこととなった。

今後、農業普及課では、営農指導員と研究班ほ場を巡回し、試験実施状況の確認や課題解決に向けた支援を行う。



【研究班で試験内容を検討】

## ■スナップエンドウ・グリーンピース 吉城出荷組合 現地研修会を開催

飛騨地域のスナップエンドウは、他産地が減少する期間（5～6月）に出荷できることから市場で安定した単価で取引され、夏秋トマト栽培と組み合わせるなど数年前から栽培が拡大している。

吉城出荷組合では、当地で古くから栽培されているグリーンピースとともに露地部会豆部として活動している。

5月10日には、スナップエンドウ・グリーンピース現地研修会が開催され、生産者ら約15名が出席した。

研修会では、各研修ほ場の生産者から栽培状況と霜害等対策の説明があり、順調な生育であることが報告された。普及指導員からは、両品目に共通する今後の栽培管理のポイントとして、追肥の重要性と病害虫対策の徹底について情報提供した。

農業普及課では、地域の有利性を生かした栽培指導などスナップエンドウ、グリーンピースの安定生産を支援していく。



【生産者ほ場にて研修会】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■水稲 青空教室（水稲勉強会）を開催

昨年度、田植え前の開催が好評だったことから、今年度も4月下旬から5月上旬にかけて久々野・一之宮・清見・朝日の4地区で、青空教室（水稲勉強会）を開催した。

当日は、普及指導員のほかに農業生産資材を取扱う商社の技術担当者やJA営農指導員が講師となり、水田雑草の見分け方や除草剤の効果的な使い方等について、基本事項と作業ポイントを解説した。また、一部地域で発生が確認されている「雑草イネ」や昨年被害の大きかった「いもち病」の対策を紹介した。

参加者からは、昨年はいもち病被害を振り返り効果的な対策や育苗時期の灌水方法等について質問などがあつた。

農業普及課では、今後、参加者と共有した作業ポイントや病害の対策方法を踏まえ、関係機関と連携して高品質で安定的な水稲栽培支援を行う。



【雑草イネ(籾の先端が赤い)】